

二十歳を祝う会 あいさつ （ 要旨 ）

若さと希望に満ち溢れる二十歳を迎えられた皆さんに心からお喜びとお祝いを申し上げます。おめでとうございます。 また今日まで育てこられたご家族の皆様、恩師の先生方、地域の皆様これまでのご労苦に対して敬意を表すると共に重ねてお喜びを申し上げます。

さて、我が国日本においては人口減少社会に突入し、少子化・高齢化をはじめ様々な社会的な課題を抱えると同時に、世の中の様相、社会環境も大きく様変わりしつつあります。大きく変わっているもののひとつに通信情報環境の目ざましい発達といった事があげられようかと思えます。今から 40 年前 50 年前の自分たちが若かった頃には、目の前以外の世界を知り・つながるには新聞雑誌・テレビ、直接となればせいぜい線でつながった電話器位で、世界ともなれば衛星中継さえも珍しい位でした。それも画面を見れば映像と音声がズレて流れ来るのが当たり前といったレベルでした。それが、いつしかインターネットが出来て SNS が普及し、通信環境が格段に整備されて、何時でも誰でも何処でも手軽に世界のありとあらゆる地域と繋がる事が出来るようになりました。皆さんも日々世界から入って来る情報を見たり聞いたりしながら、暮らしや生活ぶりを見て目を見張ることもあるのではないかと思います。

その国ならではの文化や習慣は当然ありますし、そこに住む人ならではの特性といったものもあります。私たちは普段気づきませんが、日本人には日本人ならではの特性があり、日本人は集団行動を好み自己主張が少なく回りに合わせる人が多いとか、会社や組織のために献身的に働くとかよく言われます。他にも幾つもの特性が指摘されていますし、良い点も多くあります。世界の国の中で財布を落として戻ってくるのは日本だけだと言われていきますし、日本人ならお年寄りから子どもまでの誰もが、法律や難しいきまりは知らなくても、「悪い」「ずるい」「卑怯だ」の区別ができます。あの東日本大震災や今回の能登半島地震のような大変な状況の中でも、必要とあれば並んで整然と並んだり我慢しながらも指示に従うことができるのも日本人ならではのと言われています。

このように日本人には素晴らしい特性が幾つもある訳ですが、私はそんな素晴らしい特性のひとつに「区切り」を大切にするとといったことがあげられるかと思っています。それは今日の式典のように節目節目の時を大切に、それを気持ちの面にも活かして自分を見つめ向き合う機会にするという素晴らしい習慣だと思います。大晦日元旦、日本人であれば誰しもが一年を振り返り新たな年に思いを馳せている筈です。入社式や入学式。この時も私達は特別な思いをもって臨んでいます。ちなみにアメリカでは入学式や始業式、終業式といったものは少ないと聞いてます。

今、皆さんは「二十歳」という人生の中でも大きな節目の時を迎えています。 この時にこそ今一度自分を見つめ直しながら、将来のあるべき姿目指すべき姿をはっきりと思い描き、その姿に向かって進んでくれることを願っています。私としては皆さんに二つの姿を期待したい

と思います。ひとつは、皆さんの目の前にキラキラと光り輝いている筈の夢や希望に向かって進む姿。夢や希望を実現するために日々努力を重ね、一日一日を大切にしながらひたむきに進んでいく、そんな姿を目指し精進して下さい。

もうひとつは、成人として或いは大人として社会人としての周りからの期待に応えていこうとする姿です。成人ということは一人前ということです。一人前ともなれば回りの見る目も一段と厳しいものが出てきます。日頃の挨拶や態度、身なり、言葉使いに始まって職場での責任や地域での貢献など、何かにつけ評価されるようになります。評価されるということは期待の表れでもあります。成人としての周りからの期待に応えるために、時々を懸命に過ごしていく姿を見せてくれることを期待しています。勿論人生には多少の困難はつきものですので、それを乗り越えるための努力苦労は必要ですが、何よりも皆さんにはそれを乗り越えるだけの若さ・エネルギー・可能性があります。自分を信じて、前向きな気持ちを持って自分の人生を見失うことなく堂々と歩んで行く、そんな姿となることを願ってやみません。大いに期待をしています。

地元の町長として、ひとつお願いをしておきます。それは皆さんの若い力を故郷のために貸して欲しいということです。方法はそれぞれで構いません。故郷に住むこと、故郷で働くこと、故郷に戻ってくること、或いは故郷に関わること、故郷を思うことでも構いません。今皆さんの故郷は本当に若い人の力を必要としています。これからも「ふるさと南木曾」と繋がって下さい。故郷と繋がっている限り故郷はいつでも皆さんを応援していきますので、皆さんも故郷に何かしらの方法で力を寄せて頂ければとお願いをするものです。

そんなことを心の片隅に置きながらも、先ずは健康に気を付けながら日々を一生懸命過ごして皆さんが活躍されること、さらには人生の花を大きく開かせ実り多き人生とならんことを心からお祈り申し上げお祝いの言葉、餞の言葉と致します。

人生はこれからが本番。がんばっていきましょう。

(令和6年8月14日 南木曾会館ホール)